

小さな自治体・東豎町のまちづくり
伝統文化の継承と発展
猿楽能と町衆
東豎町自治会文化委員会



発表者
副委員長 達富弘之





京都府亀岡市東堅町
面積 約27200m²
戸数 76戸
人口 173名
(H25.12.1現在
亀岡市HPより)

自治会組織図

東豎町自治会

町内の自治（良好な地域社会の維持及び形成に資することを目的とし各種情報提供と親睦連帯感を深める行事等。ホームページの運営）

東豎町自治会文化委員会

文化講座の取り組み

- ①文化講座（地域資源の掘り起こし）
- ②文化講座（住みよい町づくり）
- ③郊外講座・研修
- ④関係諸団体との交流

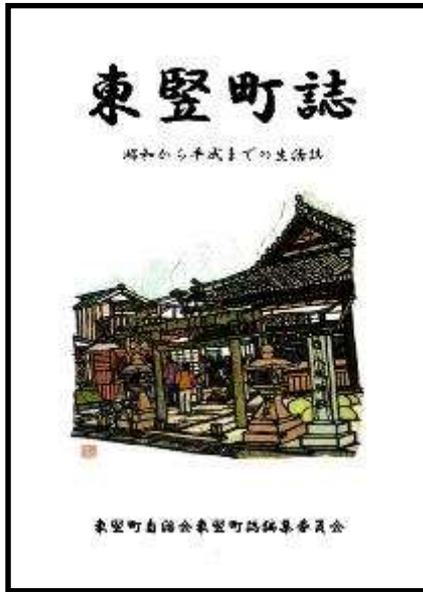
文化祭の取り組み

- ⑤文化祭の実施（地域文化力の向上）
- ⑥燈籠の製作（猿楽能と山鉦）

文化委員会の基本理念と取り組み

- 小さな地域のささやかな活動、地域内に存在する歴史的建造物、文化財、人脈を活用し、歴史に学び、未来を展望し、地域住民相互のコミュニケーションと連帯を保ち、望ましい共生環境を整える。
- 少子高齢の中、町内の活性化の為文化委員会を発展させ、町内の未来を展望する取組を実践する。 文化講座の新たな展開(A)
- 町内に残る文化財の保存、活用に取り組む。
- 過去3年間の取り組みの継承・発展を図る。(B)

町誌づくりの取り組みは伝統文化掘り起こしの宝庫



「猿樂能」と「田楽能」

神事能

その発祥は五穀豊穰を祈る農耕の願いと無病息災を願う庶民文化に根差すものであっただろう。

母体の違いによって、大衆を基盤とする物まね縁起を主流とする『猿樂能』と都人、貴族社会を基盤とする幽玄を目指した「田楽能」に分化していく。隆盛期の猿樂能は大和猿樂。近江猿樂、丹波猿樂、摂津猿樂、伊勢猿樂、越前猿樂など全国に広がっていたようです。やがて大和猿樂と近江猿樂が勢力を強め、さらに都の田楽能の要素を取り入れ大和猿樂が現代の能に収束していったようです。

大和4座の一つ「結崎座」の世阿弥・観阿弥のスーパースターの功績は周知の通りでしょう。

神事能致候



『丹波猿楽能』発祥地 鋤山神社



鋤山神社のある京都丹波、亀岡市矢田地域は丹波猿楽能、日本の古典芸能『能』の発祥地である。発祥から江戸時代まで、当地域の矢田座は隆盛を極め、京都の伏見の御香宮や上賀茂神社、大原などへ神事能の奉納あるいは指導に出向いている。京丹波地域にはほかにも幾つかの座があった様で、丹波梅若の痕跡は南丹市日吉町に残る。梅若家の菩提寺曹源寺の前にある橋の欄干には能舞が描かれている。梅若の墓碑は人里離れた木畑ヒヨ地区の山間にひっそりと立つ。

矢田地区には雅楽も継承されており、歴史の重みを感じる。渡来系の散楽から分岐し種々の古典芸能が丹波地域に根付いている。亀岡城下町に残る山鉾にも多大の影響を与えたようだ。

鋤山神社はもみじの名所である。晩秋の丹波路散策には当地のもみじ鑑賞をお勧めする。

鍬山神社に猿楽能のルーツが



鍬山神社に猿楽能のルーツが

鍬山神社

…
なお当社で行われていた神事能の一つに現在の能楽の源流の一つともなっている丹波猿楽があり平安京はもとより摂津・河内など各地に出向いて活躍していました。が天正4年（1576）明智光秀の丹波侵攻の混乱により悉く廃れたと言われています。

当社は、和銅二年（709）に創祀されたと伝えらる。古にお社で、鍬山大明神または笑日社とも呼ばれていました。平安時代には着せられた、要式神名帳にも丹波国桑田郡十九座の一つとして記載されています。社伝等によると、龜岡盆地が湖だった頃、大乙貴命（天國主命）が黒柄山（大乙の神様）を集め、一艘の燈船に乗り、一把の鍬で浮田（請田）の峽を切り開き、肥沃な盆地を築いたと伝えます。里人はこの神徳を称え、天國山の麓にお祀りしたのが始まりで、名前も開削に使った鍬が山嶺みになったことから鍬山大明神と呼ばれました。また、鍬山大明神の横に祀られた、八幡宮社は、永万元年（1625）に菅田神が降臨され、以後祀られることになりましたが、両宮の社殿が現地に建立されたのは慶長五年（1600）龜山城主岡部長益の時です。

なお、当社で行われていた神事能のルーツに現在の能楽の源流の一つともなっている丹波猿楽があり、平安京はもとより摂津・河内など各地に出向いて活躍して、また、天正四年（1576）明智光秀の丹波進攻の混乱により悉く廃れたと言われています。

その後、歴代龜山城主が神領等を守護するに保護を努め、徐々に祭祀が復興しました。十月、四立の秋の例祭は、十一基の山鉾が出陣、獅子を奏で、丹波の祇園祭としても親しまれています。この山鉾行事も藩主と町衆が一体となって守り伝えてきたものです。

地域に残る神事能の痕跡

古文書は語る

馬路地域の猿楽能

御香宮・大原への出前の記録

点在する丹波梅若のゆかり

第1回調査は南丹市日吉町 丹波猿樂能 梅若家の墓所 南丹市日吉町殿田



丹波猿樂能 梅若家の菩提寺 曹源寺 と 曹源寺橋欄干



南丹市日吉町殿田



丹波猿樂能 梅若家の墓碑

南丹市日吉町生畑ヒヨ

